

第5学年 音楽科学習指導案

1 題材 重なり合う音の美しさを味わって歌ったり聴いたりしよう

教材曲 「静かにねむれ」 武井君子 作詞／フォスター 作曲 浦田健次郎 編曲
 「それは地球」 長崎一男 作詞／森 京太郎 作曲
 「威風堂々 第1番」 エルガー 作曲

2 学習指導の考え方

このような子どもたちだから	
本学年の子どもたちは、これまでに、重なり合う声の響きに関心を持ち、音の重なりが合っているかいないか、どんな声が響き合うかということに気を付けて部分2部合唱に取り組んできている。「やさしい風に」では、音が重なり合うと主旋律だけの時よりも豊かな響きが生まれることを味わい、グループに分かれて声を重ねて歌ったり聴き合ったりして音の重なりを気を付けて歌ったりすることを楽しんできている。しかし、主旋律をさらに生かす和音の響きの重なりや、響きの重なりが主旋律に合わせて変化するということがまでは意識されておらず、和声感は十分身に付いていない。	
このような教材で	このような指導・支援を行いながら
<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌唱曲「静かにねむれ」は、ゆったりとした4/4拍子の曲である。旋律のほとんどが、1小節1和音の形を中心に構成されており、和音の響きやその変化を感じ取りながら旋律と和音の関わりを理解するのに適している。そして、響きが変化しながら旋律を飾っていく様子を味わって演奏できる曲である。 ○ 歌唱曲「それは地球」は、4/4拍子、A(A b)B(C C')の二部形式で構成されている。3・4フレーズの前半の旋律が分散和音になっており、4フレーズの後半が易しい三部合唱になっている。また、3・4フレーズの合唱を通して「静かにねむれ」で学習したハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7の和音の響きが味わえる。各パートの旋律の動きが無理がなく、階名視唱でも比較的音がとりやすく、三部合唱の導入として取り組みやすく、和音の響きを楽しんだり味わったりすることができる。 ○ 鑑賞曲「威風堂々第1番」は、オーケストラの様々な楽器が登場し、華やかに響く色彩感にあふれた曲である。旋律を演奏する楽器、旋律を和音や低音で飾りながらリズムを刻む楽器など、それらが織りなす美しい響きを感じ取りながら聴いたり、それぞれのパートを演奏する楽器を選んで響きを工夫しながら演奏したりすることができる。 これらのことから、和音の響きに関する感覚や表現の力を育てたり、和音の響きを味わったりする学習に適していると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ つかむ段階 歌声に和音の伴奏が重なって醸し出す美しい響きや、その変化などを感じ取らせるために、「静かにねむれ」の主旋律を階名唱しながら、主旋律＋低音伴奏の演奏に合う和音伴奏を、提示された4つの和音からつける活動を行う。 ○ 深める段階 「それは地球」の三部合唱への意欲を持たせるために、範唱を聴いて曲想をつかませ、こんなふうに表現したいという「表現のめあて」を持たせる。次に、三部合唱の和音の響きに気付かせるために、主旋律のみの斉唱と三部合唱を聴き比べさせる。さらに、旋律楽器を使って中声部や低声部の旋律を聴きとらせ、三部合唱を行う。その際、「静かにねむれ」で学習したハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7の和音が歌唱でも味わえることに気付かせる。そして、自分たちの表現を高めさせるために、グループに分かれ課題解決に向けて表現の工夫をし、交流する活動に取り組ませる。 ○ 味わう段階 「威風堂々第1番」のいろいろな楽器が重なり合って響く音の美しさを味わわせるために、主旋律の部分が繰り返される度にオーケストラの音がどのように変化しているか聴き取らせる活動を行う。最後に鑑賞の活動で気付いたり感じたりしたことを自分たちで演奏して確かめさせ、重なり合う音の響きを味わわせる。
このような目標を設定して学習指導を展開します	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 和音の響きや響きの変化を感じ取って聴いたり、美しい響きを表現するための工夫をしたりすることができる。 	

3 学習指導計画（全9時間）

題材	教材曲	つかむ段階	深める段階	味わう段階
		第1次(3)	第2次(3)	第3次(3)
重なり合う音の美しさを味わって歌ったり聴いたりしよう。	「静かにねむれ」 「それは地球」 「威風堂々 第1番」			

4 (1) 評価と評価計画（題材の展開と題材の評価規準→単位時間ごとの学習計画における評価規準）

	題材の評価規準	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
			声や音が重なり合う響きの美しさを求めて、表現の仕方を工夫しようとしている。	声や音が重なり合う響きを感じ取って、歌や演奏の仕方を工夫している。	響きのある声や響きの変化を感じ取って歌うことができる。
本題材で取り上げる活動と評価のかかわり	歌唱	○	○	○	
	器楽		○		
	音楽づくり				
	鑑賞	○			○
学習過程	主な学習活動と内容	単位時間ごとの学習における具体的な評価規準			
第1次	ねらい：和音の響きの美しさやその変化を感じ取って、表現の仕方を工夫することができる。				
つかむ段階 ①	○ 「静かにねむれ」の曲想を感じ取って、旋律の歌い方を工夫する。 ・ 曲想を感じ取って歌い方を工夫すること 活用		① 豊かな響きのある自然で無理のない歌声やきれいな歌声を求めて歌っている。[歌唱]（観察，発言）		
②	○ 主旋律を階名唱しながら、主旋律に合う和音伴奏をつける。 ・ 和音伴奏に親しみ、音の重なりを感じ取ること 習得	① 楽器への理解を深めながら、和音伴奏を楽しんでいる。[歌唱]（観察，発言）	② 旋律の流れに合う和音の響きを提示された4つの和音から選んでいる。[歌唱]（観察，発言）		
③	○ 主旋律と和音伴奏を合わせて演奏する。 ・ 音の重なりを感じ取りながら演奏すること 習得			① I・IV・V・V7を中心とした和音を使い、旋律の流れに合う和音の響きを作って演奏している。[歌唱]（観察，発言）	

第2次	ねらい：和音の響きの変化を感じ取って、主旋律を中心にした響きのバランスを工夫しながら三部合唱することができる。					
	深める段階①	○ 「それは地球」の曲想を感じ取り、音の重なりよさへの気付きから表現のめあてをもつ。 ・ 曲想を感じ取って、それを生かした歌い方のめあてをもつこと 習得	② 自分自身の表現意図をもち、友だちの歌声を聴いて豊かな響きのある自然で無理のない声で歌っている。[歌唱] (観察, 発言, ノート)			
	②	○ 3つのパート(主旋律・中声部・低声部)に分かれて、三部合唱をする。 ・ 音の重なりを感じ取りながら合唱すること 習得		③ 重なり合う歌声の豊かさや美しさを感じるとともに、友だちと共に歌うことの喜びを感じ取っている。[歌唱] (発言, ノート)		
③ 本時 5 の 3	○ 範唱と自分たちの表現を聴き比べ、表現を見直し、より美しい響きの三部合唱になるよう工夫する。 ・ 各声部の歌声や伴奏を聴きながら、正しい音程や響きのバランスを工夫して歌うこと 活用		④ 音の重なりや和音の美しい響きを味わい、曲想表現を工夫している。[歌唱] (発言, ノート)	② リズム, 旋律, 和音などの要素を感じ取って歌ったり、それらの相互のかかわりをとらえたりしている。[歌唱] (観察, 発言)		
第3次	ねらい：音が重なり合う響きの美しさを味わいながら、聴いたり、各パートを演奏する楽器の組み合わせ方を工夫して合奏したりできる。					
	味わう段階① 本時 5 の 1	○ 「威風堂々第1番」のいろいろな楽器が重なり合って響く音の美しさを味わう。 ・ 主旋律の部分が繰り返される度にオーケストラの音がどのように変化しているか聴き取ること 習得	③ 楽器の音の重なりや溶け合いによって生まれる多彩な響きの美しさを味わって聴こうとしている。[鑑賞] (発言, 観察)			① 音色の異なった様々な楽器がかかわり合ったり溶け合ったりして生まれる音の響きの美しさを感じ取って聴く。[鑑賞] (発言, ノート)

<p>② ③</p>	<p>○ 音が重なり合う響きの美しさを味わいながら合奏する。 ・ 楽器の特徴を生かしたり音量のバランスに気を付けたりしながら表情豊かに演奏すること 習得</p>		<p>⑤ 個々の楽器の演奏や小アンサンブルなど楽器表現の豊かさや美しさを感じるとともに、友達と演奏することの喜びを感じ取っている。【器楽】(観察, 発言)</p>		
----------------	--	--	---	--	--

(2) 観点別評価の進め方

[音楽への関心・意欲・態度]

学習活動における具体的評価規準		具体的な評価方法とCと判断される場合の支援	
<p>アー①</p>	<p>楽器への理解を深めながら、和音伴奏を楽しんでいる。 【歌唱】 (観察, 発言)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、主旋律を階名唱しながら、主旋律に合う和音伴奏をつける様子を観察していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード □ 積極的な行動 □ リーダーシップ 旋律に合った和音伴奏をつけるために、自分や友達の考えを積極的に試したり、グループの意見を調整して全体の考えをまとめたりしている子どもをAの対象としていきたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 個別に指導する。一緒に主旋律を歌ったり、和音伴奏が主旋律に合っているかどうか尋ねたりして、共に活動する。</p>	
<p>アー②</p>	<p>自分自身の表現意図をもち、友だちの歌声を聴いて豊かな響きのある自然で無理のない声で歌っている。 【歌唱】 (観察, 発言, ノート)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、歌唱表現している様子を観察していく。範唱を聴いて、曲想を感じ取り、自分なりの表現のめあてを持ち友達と話し合ったり歌ったりする様子を観察したり、学習プリントの書き込みから判断したりしていく。</p> <p>● Aと判断するキーワード □ 自分なりの工夫 □ 音楽的な意見 楽曲の特徴をとらえた歌唱にするための意見を積極的に出していたり、自分なりに工夫しながら歌って表現のめあてを達成するにはどのような工夫が必要か考えたりしている子どもをAの対象としていきたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 教師が本人の意見を聞き、「音楽のもとカード(音楽を形づくっている要素)」や「音楽の言葉カード(曲想)」を提示して、自分の感じたことに近いものを選ばせ、思いを言葉にすることを助言する。</p>	

<p>アー③</p>	<p>楽器の音の重なりや溶け合いによって生まれる多彩な響きの美しさを味わって聴こうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【鑑賞】 (発言, 観察)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 この評価規準については、曲想の変化から構成と音の重なりや違いについて話し合う様子を観察したり、学習プリントの書き込みから判断したりしていく。 ● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> 音楽的な意見 曲の感じが変わったと思うところで挙手をし、なぜそう感じたのか、楽器の音の重なりや響き、リズムの変化などの観点から発言している子どもをAの対象としていきたい。 ● Cと判断される子どもへの支援 「はげしく動く」「ゆったりと流れる」のカードを使って、曲の構成がわかるように順番に並べて掲示し、曲想の変化に気付きやすいようにし、気付いたときには賞賛し励ます。
------------	--	--

[音楽的な感受や表現の工夫]

	学習活動における具体的評価規準	具体的な評価方法とCと判断される場合の支援
<p>イー①</p>	<p>豊かな響きのある自然で無理のない歌声やきれいな歌声を求めて歌っている。</p> <p style="text-align: right;">【歌唱】 (観察, 発言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 この評価規準については、歌唱表現している様子を観察していく。範唱を聴いて、表現の工夫に気付きグループで話し合っている様子を観察したり、学習プリントの書き込みからも判断したりしていく。 ● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> 曲想にふさわしい歌い方の工夫や音楽的な発言 <input type="checkbox"/> 歌唱表現への思いや願いを表現するためのこだわりをもった練習 曲想をつかむ際に、音楽の要素と結び付けたり、歌詞の表す情景を思い浮かべて聴いたりし、発言をしている。また、自分なりのこだわりや課題を持って部分的に練習をしている子どもをAの対象としたい。 ● Cと判断される子どもへの支援 個別に指導する。教師が本人の思いを聞き取り他の友達に伝えていく。
<p>イー②</p>	<p>旋律の流れに合う和音の響きを提示された4つの和音から選んでいる。</p> <p style="text-align: right;">【歌唱】 (観察, 発言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 この評価規準については、グループで練習に取り組んでいる様子を観察したり、子どもたちと会話をしたり、演奏を聴いたりする中から判断していく。 ● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> メンバーの意見の調整 メンバーそれぞれの意見を全体のバランスを考えて調整する意見を出していたり、主旋律の移り変わりを意識した和音伴奏をつけ表現したりしている子どもをAの対象としたい。 ● Cと判断される子どもへの支援 本人と一緒に活動し、旋律に合う和音がどれになるのか意見を聞き、それをグループに広げていく。
<p>イー③</p>	<p>重なり合う歌声の豊かさや美しさを感じる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法

	<p>とともに、友だちと共に歌うことの喜びを感じ取っている。</p> <p style="text-align: center;">【歌唱】 (発言, ノート)</p>	<p>この評価規準については、グループで練習に取り組んでいる様子を観察したり、子どもたちと会話をしたり、演奏を聴いたりする中から判断していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Aと判断するキーワード <ul style="list-style-type: none"> □ メンバーの意見の尊重 □ こだわりを持った練習 <p>グループでの練習の際、他のメンバーの出した意見を尊重しようとしていたり、その実現のために一生懸命表現していたり、課題解決のためにこだわりを持って部分的に集中して練習をしていたりする子どもをAの対象としていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Cと判断される子どもへの支援 <ul style="list-style-type: none"> 本人の傍らに行き、共に活動することで本人の活動を引き出すようにしたい。
<p>イー④</p>	<p>音の重なりや和音の美しい響きを味わい、曲想表現を工夫している。</p> <p style="text-align: center;">【歌唱】 (発言, ノート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 <p>この評価基準については、他グループの表現を聴き、お互いの表現について話し合う様子を観察したり、学習プリントの書き込みから判断したりしていく。</p> ● Aと判断するキーワード <ul style="list-style-type: none"> □ 表現の課題を意識した良い点の発見 <p>他グループの表現を聴いて、表現の課題が克服されているかどうか、どのようなよさや美しさがあったのか、自分達の表現にどこをどう生かしたいのかを発言している子どもをAの対象としていきたい。</p> ● Cと判断される子どもへの支援 <ul style="list-style-type: none"> 他グループの表現を聴く際、聴く観点を一つにしぼって与え、一つの観点からよさや美しさを感じ取らせるようにする。
<p>イー⑤</p>	<p>個々の楽器の演奏や小アンサンブルなど楽器表現の豊かさや美しさを感じると共に、友達と演奏することの喜びを感じ取っている。</p> <p style="text-align: center;">【器楽】 (観察, 発言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 <p>この評価規準については、グループで練習に取り組んでいる様子を観察したり、演奏を聴いたりする中から判断していく。</p> ● Aと判断するキーワード <ul style="list-style-type: none"> □ 効果的な楽器の選択 □ 音楽的なアイデアの提案 <p>感じ取った曲想を表現するために、それぞれの楽器の特徴を生かした組み合わせを考えたり、主旋律と各パートの音量のバランスなどに気を付けて演奏するようメンバーに促したりしている子どもをAの対象としていきたい。</p> ● Cと判断される子どもへの支援 <ul style="list-style-type: none"> 周りで演奏している友達の音に注意を向けさせ、楽器を選ばせ一緒に演奏をする。向上していることを認め称賛し励ます。

[表現の技能]

学習活動における具体的評価規準		具体的な評価方法とCと判断される場合の支援
ウー①	<p>I・IV・V・V7を中心とした和音を使い、旋律の流れに合う和音の響きを作って演奏している。</p> <p style="text-align: right;">【歌唱】 (観察, 発言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 この評価規準については、発表時の子どもたちの演奏する様子を観察したり、記録したVTRを視聴したりするとともに、学習プリントの書き込み状況からも判断していく。 ● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> 美しい表現の追求 <input type="checkbox"/> 表情や体全体を使った演奏 グループ全体が美しい表現になるように課題を明確にし、工夫して表現していたり、楽曲の特徴を表そうとして表情や体全体を使って歌っていたりする子どもをAの対象としていきたい。 ● Cと判断される子どもへの支援 一人一人のよいところを認めていくような雰囲気ができるように、教師がよさを広げるような助言をする。
ウー②	<p>リズム、旋律、和音などの要素を感じ取って歌ったり、それらの相互のかかわりをとらえたりしている。</p> <p style="text-align: right;">【歌唱】 (観察, 発言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 この評価規準については、発表時の子どもたちの演奏する様子を観察したり、記録したVTRを視聴したりするとともに、学習プリントの書き込み状況からも判断していく。 ● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> 美しい表現の追求 <input type="checkbox"/> 表情や体全体を使った演奏 表現のめあてを常に意識し、グループ全体が美しい表現になるように課題を明確にし、工夫して表現していたり、楽曲の特徴を表そうとして表情や体全体を使って歌っていたりする子どもをAの対象としていきたい。 ● Cと判断される子どもへの支援 個別にパート練習を行ったり、同じパートの友達の表現をよく聴くように助言したりしながら、一緒に活動を行う。

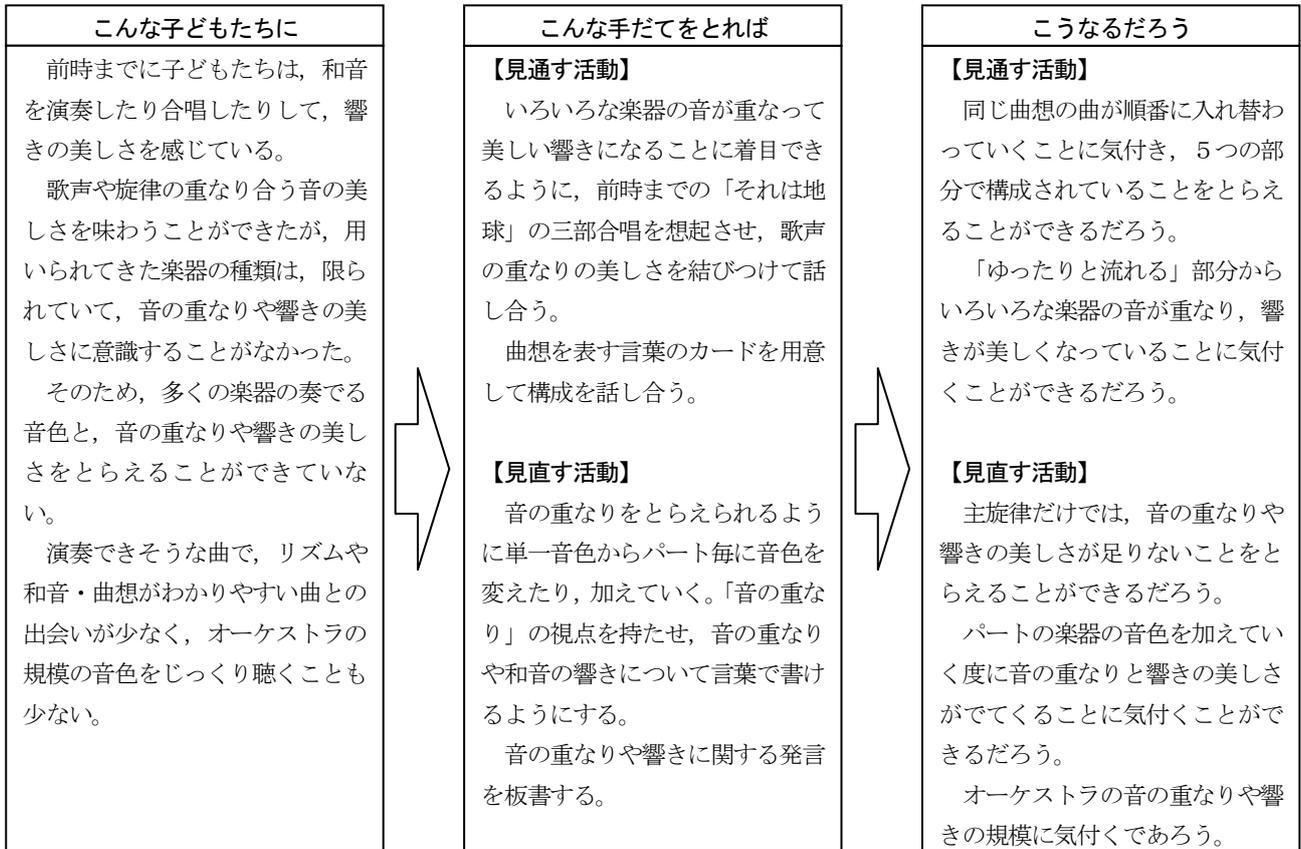
[鑑賞の能力]

学習活動における具体的評価規準		具体的な評価方法とCと判断される場合の支援
エー①	<p>音色の異なった様々な楽器がかかわり合っ て生まれる音の響きの美しさを意識して聴 いている。</p> <p style="text-align: right;">【鑑賞】 (発言, ノート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 この評価規準については、感じ取ったことを発表する様子を観察したり、学習プリントの書き込みの内容から判断したりする。また、鑑賞中の顔の表情、態度なども加味しながら判断していく。 ● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> 題材のねらいに即した発言や書き込み 様々な楽器がかかわりあう音の重なり の美しさに着目した発言をしたり、なぜ美しく感じるのかを考え自分なりに分析をし、学習プリントに書き込んだりしている子どもをAの対象としていきたい。 ● Cと判断される子どもへの支援 学習カードに何も書けないような子どもについては、直接会話をしてその受け答えの中から、本人の気付いていることを明確にし、言葉に表す支援をしていく。

6 本時の目標

- 曲想の変化から、曲の構成に気付くことができる。
- オーケストラの様々な楽器の音が重なり合って生まれる響きのよさや美しさを味わって聴くことができる。

7 本時の授業仮説



8 準備

- 教師…CD「威風堂々 第1番」、スピーカー、スクリーン、プロジェクター、パソコン、さし絵
- 子ども…学習プリント

9 板書計画

重なり合う音の美しさを味わおう			
「威風堂々 第1番」			
めあて 曲の構成や楽器の種類に気を付けながら、「威風堂々 第1番」をきこう。			
	どんな構成・どんな感じ	(スクリーン)	重なりや響きは?
作曲家 「エルガー」 オーケストラ 弦楽器 木管楽器 金管楽器 打楽器	ア激しく動く ↓ イゆったりと ↓ 流れる ア ↓ イ ↓ ウ	(オーケストラ演奏の画像)	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ音は響かない。 ・多くの楽器の音色の重なりがよい。 ・和音の響きがある。 ・打楽器のリズムが響きと重なりがよくなる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・順番に入れ替わっている。 ・ゆったりした部分は、重なりや響きが美しい。 		オーケストラは音の重なりがよくて、響きが美しい。

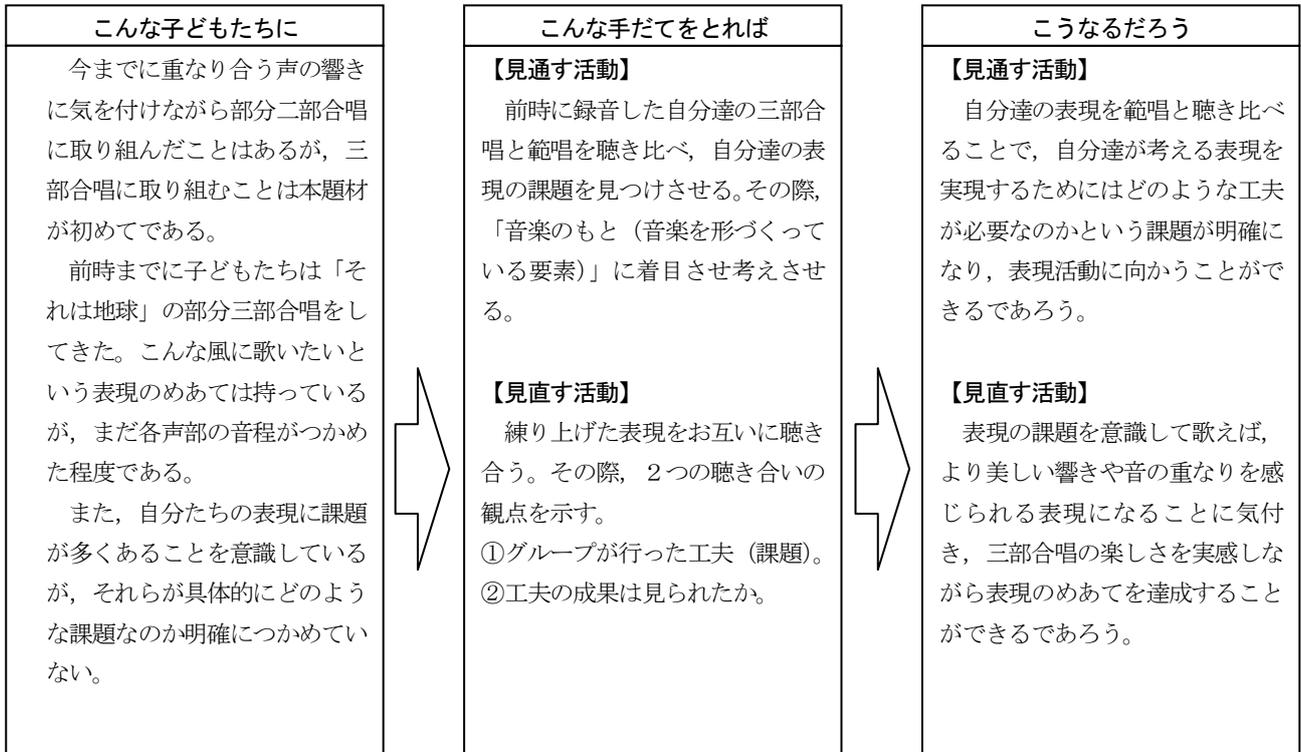
10 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援(☆は習得, ★は活用)◆評価規準
<p>1 曲の感じをつかむ。</p> <p>(1) 曲の構成や楽器の種類を思い浮かべながら聴く。</p> <p>(2) 「威風堂々」の作曲者と曲の由来, オーケストラの仕組みを知り, めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて</p> <p>楽器の音色と曲の構成に気を付けながら「威風堂々 第1番」をきこう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一部を聴かせ, 関心を高めるようにする。 ○ 曲の構成につなげるために演奏時間も知らせる。 ○ オーケストラの写真を提示し, 弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器など多くの楽器があることに気付かせる。
<p>(3) 見通す活動をする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【見通す活動】</p> <p>曲想の変化から構成と音の重なりや響きの違いについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想がはっきり分かれている。 ・ 順番に入れ替わっている。 ・ 音の重なりやきれいな部分がある。 ・ 音とリズムがぴったりあって, 響きあっている。 </div> </div>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>主旋律の部分が繰り返される度にオーケストラの音が変わっていることを聴き取ることができる。</p> <p>★ オーケストラの演奏動画を見せながら, いろいろな楽器の音が重なって, 美しい響きになっていることに着目できるように, 「それは地球」の三部合唱を想起させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「はげしく動く」「ゆったりと流れる」のカードを使って構成がわかるように順番に並べて掲示する。 </div>
<p>2 「ゆったりと流れる」部分の音の重なりや響きに気を付けて聴く。</p> <p>(1) 音の重なりや響きの美しさがはっきりしている「ゆったりと流れる」部分をすべてピアノの音色に変えた演奏を聴く。</p> <p>(2) パート毎に楽器の音色を変え, 音の重なりや響きの変化を聴き取る。</p> <p>(3) 見直す活動をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 楽器の音の重なりや溶け合いによって生まれる多彩な響きの美しさを味わって聴こうとしている。 (ア-③) ○ 曲の進行がわかるように, 楽譜を投影し, 単一の音色では, 音の重なりや響きが伝わらないことに気付かせる。 ○ 音の重なりや響きの美しさがわかるように, 主旋律～他のパート～打楽器のパート順に楽器の音を加えていく。
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【見直す活動】</p> <p>加わっていく楽器の音を聴き, 響きの重なり合いの美しさを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <ul style="list-style-type: none"> ・ 主旋律も他のパートも同じ楽器の音色だと, わからない。 ・ 違う音色の楽器で和音を加えていくと, 音が重なってきた。 ・ 太鼓やシンバルが入るとオーケストラみたい。 </div> </div>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「音の重なり」の視点を持たせ, 音の重なりや和音の響きについて気付いたことを言葉で書けるようにする。 ○ 言葉で表しにくい子には, 表現カードから選ばせる。 <p>☆ 音の重なりに着目できるように, 関連する発言を板書で整理する。</p> </div>
<p>3 本時の学習をまとめる。</p> <p>(1) 「ゆったりと流れる」部分のオーケストラの演奏と指揮を視聴する。</p> <p>(2) 今日の学習で, 音が重なり合うよさや響きの美しさについて感じたことをまとめる。</p> <p>(3) 次時の意欲をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの楽器の音色や和音によって, 響きが美しくなっていることを確かめることができるようにオーケストラの動画を見せる。 ◆ オーケストラの音が重なり合う響きの美しさを感じ取りながら意識して聴くことができる。 (エ-①) ○ リコーダ演奏の冒頭の部分を聴かせる。

6 本時の目標

- より美しい和音になるように、各声部の音程をより正しく歌ったり、各声部の響きを合わせたりするなど、前時までの表現を見直し合唱することができる。

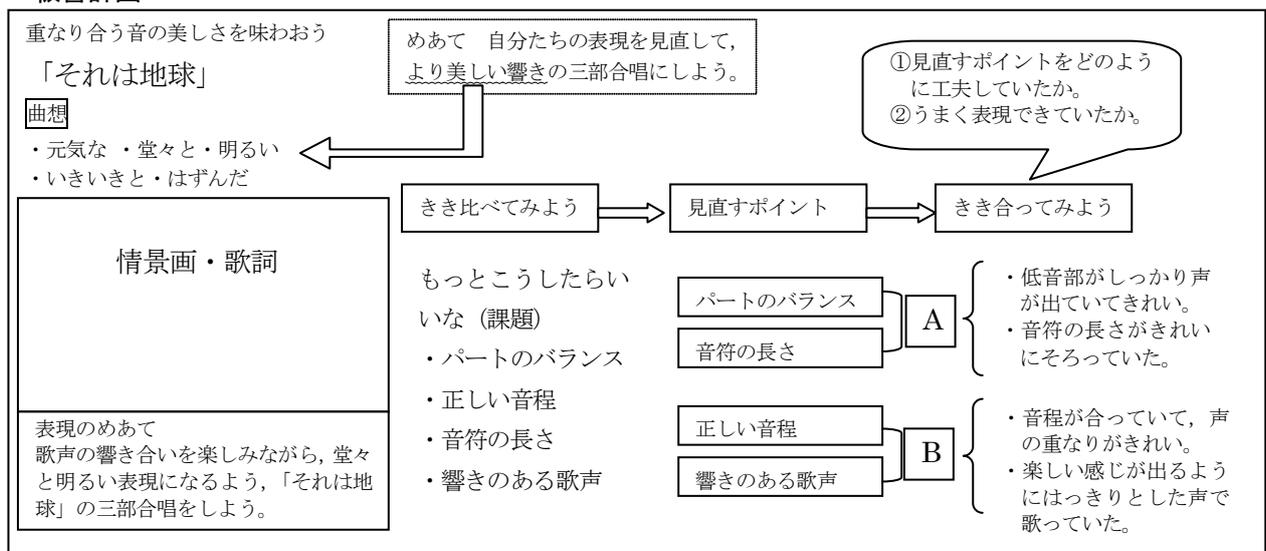
7 本時の授業仮説



8 準備

- 教師…縦書き歌詞・情景画、拡大楽譜（黒板用1枚、グループ用2枚）、範唱CD、自動伴奏付オルガン2台、伴奏CD（グループ用2枚）、前時に録音した自分達の三部合唱、CDデッキ2台、録音用機器
- 子ども…学習プリント

9 板書計画



10 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援(☆は習得, ★は活用)◆評価規準
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを持つ。</p> <p>(1) めあてを確認する。</p> <div data-bbox="204 360 1390 405" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 自分たちの表現を見直して、より美しい響きの三部合唱にしよう。</p> </div> <p>(2) 見通す活動をする。</p> <div data-bbox="177 472 790 831" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【見通す活動】</p> <p>より美しい響きの三部合唱を目指すために、範唱と前時の自分たちの表現を聴き比べ、表現の課題を考える。</p> <div data-bbox="193 663 256 730" style="float: left; margin-right: 10px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各パートの声の大きさが合っていないよ。 ・ 正しい旋律で歌えていないところがあるよ。 ・ 音がずれないように友達の歌声を聴こう。 ・ 歌声をきれいにしよう。 </div> <p>2 見直しのポイントをもとに、グループで表現を見直す。</p> <p>(1) グループごとに表現を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見直しのポイント <ul style="list-style-type: none"> ・ パートのバランスはとれているか。 ・ 音符の長さは十分か。 ・ 正しい音程で歌えているか。 ・ 響きのある歌声で歌えているか。 <p>(2) 見直す活動をする。</p> <div data-bbox="177 1279 790 1715" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【見直す活動】</p> <p>グループの合唱を発表し合い、表現を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現の課題を意識しながら、他グループの表現を聴く。 ○ <div data-bbox="185 1503 248 1570" style="float: left; margin-right: 10px;">  </div> <p>Aグループは低声部の歌声が小さくならないように工夫していました。Aグループの歌声をきいて、パートのバランスがよく、三つの音の重なりがとてもきれいだと思いました。</p> </div> <p>3 本時学習のまとめをする。</p> <p>(1) 本時学習を振り返るために、学習プリントに感想をまとめ、発表する。</p> <p>(2) それぞれのグループの良いところを取り入れ、全体で歌いまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までにつかんだ曲想や表現のめあてを意識して活動中もそこに立ち返り、工夫をすることができるようにするために、表現のめあてを掲示しておく。 <div data-bbox="842 427 1406 528" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>各声部の歌声や伴奏を聴きながら、正しい音程や響きのバランスを工夫して歌うことができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ★ 範唱の後に前時に録音した自分たちの合唱を聴かせ、どのような工夫が必要なのか、課題を明確にさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 課題：パートのバランス、歌い方、音符の長さ、正しい音程、響きのある歌い方 など ○ 工夫する内容がわかりやすいようにするために、子どもの発言を整理しながら板書し、「表現の見直しのポイント」としてまとめる。 ○ グループ活動ができるように、グループに一台電子オルガンを準備する。 ○ 自分たちの表現の工夫が書き込めるように、拡大楽譜をグループに一枚用意する。 ○ グループの中で表現の練り上げができるように、歌う人・聴く人など役割を決めて活動させる。 ○ 工夫がうまく表現できない子どもが表現できるようにするために、「何をどんなふうに工夫して表現していきたいのか」ということを問い返したり、教師が歌い方のモデルを提示したりする。 ○ 聴き合い活動を通して、「何を見直すのか」という課題意識を持って臨ませるために、聴き合う観点を示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 見直しのポイントは何だったか。 ・ 歌い方の工夫が現れた表現になっていたか。 ☆ 発表の際、聴き合う観点をより明確にするために、工夫を書き込んだ拡大歌詞を用いて、どこをどのように工夫したのか説明させる。 ○ 振り返りの際、前時までに感じた曲想や表したい思い(表現のめあて)が達成できたかどうかを考えさせる。 ◆ 音の重なりや和音の美しい響きを味わい、曲想表現を工夫している。 (イー④) ◆ リズム、旋律、和音などの要素を感じ取って歌ったり、それらの相互のかかわりをとらえたりしている。 (ウー②)